

あいさつ

板橋区教育委員会指導室長

矢部 崇

環境都市宣言をしている板橋区では、平成20年2月、板橋区環境教育推進プランに基づき、E S D (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) の考え方を重視した小中一貫環境教育カリキュラムを策定しました。また、平成25年2月に策定された「いたばし未来創造プラン」の中には、エコポリス板橋にふさわしい「環境にやさしい最先端都市の構築」を目指した施策が打ち出されており、改めて、環境保全への全区を挙げての取組が求められていると言えます。そのために、環境教育テキスト「未来へ1・2・3」を作成、区立小中学校に配布し、小学校3年生から中学校3年生までの環境教育を教育課程に位置付け、推進するとともに、平成23年4月には、就学前からの環境教育を重視し、「幼児・児童・生徒が身に付ける資質・能力・態度」を明確にした11年間にわたる『保幼小中一貫環境教育カリキュラム』を作成し、区内全教員に配布し、活用いただいているところです。

板橋区における環境教育は、F E E L (関わる・知る・感じる)、T H I N K (主体的に問題解決をする)、A C T I O N (これまで身に付けた力を活用し、行動に移す) という3段階を大切にし、視点を「循環・多様性・生態系・共生・有限性・保全環境」として、環境についての感受性と共生や思いやりの心、環境に対する見方・考え方、環境に働きかける実践力を育成することをねらいとしています。そして、11年間のカリキュラムを、感受期(前期) / 感受期(後期) / 認識・問題把握期 / 評価・意志決定期の4期に分け、特に「感受期(前期)」にあたる4歳児から小学校2年生までの4年間では、多くの体験活動を通して、環境についての豊かな感受性や環境に対する気付きを系統的に身に付け、小学校3年生からの環境教育に必要な素地を育てていきます。

このたび配付します『板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム』では、より実際の環境教育の指導場面がイメージしやすいように、平成23～24年度に計8本実践した本時案等を、各4期2本ずつ掲載しています。また、本時案には、テキスト「未来へ」の活用場面を盛り込み、視覚的に学ばせる場面や考えさせる場面を設けました。本冊子を基に保育所や幼稚園、小学校及び中学校が連携して環境教育を充実させ、板橋区に在住する子どもたちに対する環境教育が一層推進されることを願っています。

結びになりますが、これまで「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」作成にご尽力いただきました環境教育カリキュラム部会 田鹿 明彦 志村第四中学校校長先生並びに 植松 光一 板橋第七小学校校長先生をはじめ、多くの委員の皆様へ感謝申し上げます。あいさつといたします。